

# 全 体 会 議

【座長 桑原敬一福岡市長】 福岡市長の桑原でございます。座長を務めさせていただきます。よろしくお祈りいたします。午前中は3時間にわたり、各分科会とも熱心なご討議をいただきまして、大変お疲れさまでした。今から、分科会の報告を各座長さんから行っていただきますが、それに先立ちまして、昨年11月に福岡市で開催しました第2回実務者会議について、アジア太平洋都市サミット事務局の方から報告していただきます。それでは、福岡市の井上総務企画局長に報告をお願いします。

## //// 実務者会議の報告

【井上剛紀 福岡市総務企画局長】 アジア太平洋都市サミット事務局を代表して、昨年、福岡市で開催された「アジア太平洋都市サミット・第2回実務者会議」について報告をいたします。

第2回実務者会議は、1997年11月26日から28日の3日間、「ごみの処理処分（持続的発展を目指した環境への取り組み）」をテーマに、9か国18都市から41名の参加者を得て開催されました。まず、26日の会議ですが、朝9時30分から午後5時30分まで、8時間に及ぶ会議がとり行われました。初めに福岡大学の花嶋正孝教授に基調講演を行っていただき、その後、上海市、釜山広域市、ジャカルタ特別市、オークランド市の4都市にそれぞれの事例を発表していただきました。事例発表をもとに、参加者全員による意見交換や情報交換を行い参加都市間の相互理解がより一層深められました。事例発表者のみならず、参加者の皆さんが真剣かつ活発に討議し議論を深めていた姿が非常に印象的でした。また、国連人間居住センター（ハビタット）のグラハム・フィリップ・アラバスター人間居住オフィサーから、ごみの処理処分について報告していただくとともに、国連経済社会局計画調整官米川佳伸氏をはじめ、国際協力事業団企画部環境・女性課長木下俊夫氏、財団法人廃棄物研究財団技監佐藤哲史氏から、それぞれの立場に立った意見や助言等をいただき意義深い会議となりました。そして、会議総括を福岡大学の松藤康司教授に行っていただきました。会議の詳細につきましては、お手元の報告書に掲載いたしておりますので後ほどご一読いただければ幸いに存じます。

次に、翌27日の実技研修についてですが、午前10時に廃棄物埋立場跡地に造成された福岡市リフレッシュ農園に到着し、埋立場の汚水処理施設をはじめとして、運動公園や学校などの跡地利用施設を視察した後、現在、埋立中の中田埋立場に出向き、松藤康司教授の指導のもとに準好気性埋立工法のうち経済的で安易な工法である“福岡テクノロジー”についての技術を学んでいただきました。福岡テクノロジーについては、アジアの多くの都市で既に導入されている画期的な工法で、このフィールドワークを契機にさらに広がる動きが出てきております。今後とも、本市が蓄積してきた技術等が皆様の都市で活用されますことを願っているところです。

3日目28日の行政視察についてですが、朝8時30分にホテルを出発し、福岡市の東端に位置する廃棄物焼却工場であるクリーンパーク東部と、そこに隣接する緑のリサイクルセンター等を視察しました。本市のごみ処理の現状をよく理解していただくことができたと思っております。

以上、3日間の概要を報告しましたが、今回は1995年に開催した第1回実務者会議に比べて日程が1日長くなっております。これは新たにフィールドワークの実施を試みたためですが、実地体験は実務者の皆さんに非常に理解していただき易くし、大変効果的な方法であったと思われました。そして、

ごみの処理処分に関する取組みの実態は都市によってかなりの差が見られるものの、この会議で収穫した成果を持ち帰り可能な範囲内で都市行政に反映させようという共通の認識に至ったことも併せて報告させていただきます。

最後になりましたが、事例発表にご協力いただきました4都市に対しまして、また、報告等を快くお引き受けくださった国連関係機関等に対して、改めてお礼を申し上げます。そして実務者会議に職員を派遣してくださった各都市の代表者の皆様に、ご理解とご協力を賜りましたことを深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。以上をもちまして、第2回実務者会議についての事務局からの報告を終わらせていただきます。

## ----- 第1分科会の報告 -----

**【桑原敬一 座長】** どうもありがとうございました。それでは午前中の分科会の報告を行っていただきます。第1分科会「次世代教育の取り組み」について、佐賀市の西村市長にお願いします。

### **【西村正俊 佐賀市長】**

第1分科会は、将来にわたる都市の繁栄のために必要な「次世代教育の取り組み」をテーマに、バンコク市、福岡市、広州市、熊本市、宮崎市、長崎市、シンガポール、ウルムチ市と佐賀市の9市が参加いたしました。

まず最初に、佐賀市からは、市の教育の基本方針についての発表でした。特に、子供から大人までいつでも勉学の機会が得られるという、いわゆる生涯学習の観点から、市立図書館のユニークな運営について発表をしました。

バンコク市からは、インターネットなどのハイテクノロジーの発達、都市の繁栄等、人々に大きな可能性をもたらすが、そのような時代の流れに適應できるような人材育成のための教育、人材開発が必要である。そのため、第5次バンコク開発計画に盛り込まれた教育政策のための計画の説明をしていただきました。

福岡市からは、福岡市第7次基本計画の中の子供たちの教育に関する部分について、「子供が健やかに育つ環境づくり」「スポーツ・レクリエーションの振興」「人が人として尊重される社会づくり」の3点の教育プランについての説明がありました。

広州市からは、市のこれまでの基礎教育が受験教育であったこと、この受験教育が基礎教育の発展を阻害していたことを反省し、資質教育の確立や学校の人づくりの能力アップ等、資質教育を中心とした小中学校の教育改革を進めているというお話を伺いました。

熊本市からは、これまでの教育の問題点を解決するためには、学校、家庭、地域を挙げて青少年の健全育成に取り組む必要があるということで、環境を大切にす気持ちを育む教育、国際化や少子社会に対応した教育について、また現在の大人社会を見直すための取り組み等について、説明していただきました。

宮崎市からは、21世紀を担う子供たちが心身ともに健やかにたくましく成長できるように図っていくことが、私たちの責務であるという観点から、「国際理解教育や郷土学習、環境教育などの学校教育」「健康な体づくりのためのスポーツ」「創造性豊かな青少年を育てるための芸術文化」についての

取り組みを発表していただきました。

長崎市からは、長崎市の将来を担う健全にして賢い市民の育成を図る礎は教育にありということで、国の中央教育審議会答申の趣旨を踏まえて、国際社会に生きる若者の育成と国際平和に貢献できる、よき長崎市民の育成という、長崎市の教育分野に関する2つの取り組みを紹介していただきました。

シンガポールからは、シンガポールの最も重要な資源は国民である、したがって、教育の問題は最優先課題であるとのことで、学校建設や設備整備のプログラムのお話をしていただきました。情報技術の発達による教育形態の変化とこれからの学校建設の問題点について説明をしていただきました。

ウルムチ市からは、青少年は国家と民族の未来であるということで、基礎力教育に力を入れ、教育を受ける者すべてが知識、精神、創造性、適応力などの点で向上し、徳・知・体・美・労の各方面でバランスのとれた成長をし、近代化建設に欠くことのできない人材が育つよう努力を続けているというお話をしていただきました。

事例の発表は、以上のとおりです。次に、自由討議を行いました。

まず、福岡市から、少子社会によって起こるさまざまな問題、社会情勢の変化に伴う教育改革の重要性、都市化によるコミュニティーの教育機能の低下などの問題提起がありました。これに対して活発な意見の交換が行われ、さらに長崎市からも、平和教育の取組みについて質問がありました。

全体を要約いたしますと、都市づくり、国づくりはすなわち人づくりであるという点では、皆さんの意見は一致していたようです。ただ、そのプロセスにおいて問題点、課題が多く、それぞれ真剣な取り組みがなされていました。

以上、第1分科会の取りまとめの報告をいたしました。ありがとうございます。

## ----- 第2分科会の報告 -----

**【桑原敬一 座長】** 西村市長、ありがとうございました。次に第2分科会「保健医療体制の確立」について、香港のレオン・テン・ボン・ロナルド市政局主席にご報告をお願いします。

### **【レオン・テン・ボン・ロナルド 香港臨時市政局主席】**

第2分科会では7都市代表の発表の後、活発なディスカッションが続きました。各都市が自らの保健医療制度を要約し、各都市ならではの独特の問題や、その解決のための努力に焦点をあてて説明しました。その中で次のような主要な論題が提示されました。住民の高齢化問題、ここでは高齢者とは65歳以上と定義しておりますが、これが日本の諸都市の大きな問題になっています。例えば、北九州市から高齢者と障害者のための包括的なサポート制度について詳細に発表していただきましたが、これは過去の医療制度を一つにまとめて関係各部局を完全に統合したものとなっています。医療、保健、福祉の様々な分野のネットワーキングと完全な調整ができています。大分市は、文化、スポーツ、レクリエーション活動を提供して健康な高齢者の生活の質の向上に努めています。病気や障害を抱えた在宅患者に対する訪問医療の問題も討議されました。第2番目に我々が取り上げた論題は伝染病対策です。これは特にイポー市とマニラ市の代表が強調され様々な保健サービスや疾病対策の環境的手段としての管理についてご報告いただきました。O-157やH5N1型インフルエンザやコレラのような特定の伝染病についても対策が論議されました。特に会議主催都市の福岡市が、O-157対策に関

する地元の経験を詳しく説明され、他の都市にとっても大変参考になりました。結核の再流行についても論じられましたが、高齢者ばかりでなく中年層、特にHIV感染患者に多くなっている点が指摘されました。高速交通網や旅行の発達によって地元にはなかった感染症が外部から持ち込まれる危険性も増えています。また伝染病の発生や対策について注意を喚起するためにも、参加各都市間で有用な保健情報をファックスや文書、その他の手段で交換すれば役立つのではないかという意見も出ました。以上、ご報告いたします。

### ----- 第3分科会の報告 -----

**【桑原敬一 座長】** レオン・テン・ボン・ロナルド市政局主席、どうもありがとうございました。最後に、第3分科会「都市と上下水道」について、釜山広域市の安相英市長にご報告をいただきます。

#### **【安相英 釜山広域市長】**

第3分科会では、オークランド市・鹿児島市・上海市・ブリスベン市・福岡市・ホーチミン市・ホノルル市・クアラルンプール・釜山広域市の9つの都市等が、上下水道の問題について詳細で創意的な事例発表と真摯で専門的な討議を行いました。

綺麗で安全な水の十分な供給と水量確保のために、上水源の開発や水質改善のための努力、そして節水のための様々な政策が紹介されました。

各都市別に発表された内容を要約してみますと、オークランド市、鹿児島市、上海市は、急速な都市発展による必要水量と綺麗な上水源の確保のために、市郊外に水量と水質条件が十分な上水源を開発してパイプラインを通して輸送する方法を紹介されました。一方、都市近郊で取水をすることができないブリスベン市、釜山市、上海市は、水質基準と検査を強化し水道水の安全性を高めていく政策の推進を述べられました。特に、釜山市は長期間所要される源水の水質改善事業と並行し、高度浄水処理を通した水道水の安全性を確保する方案を紹介しました。ブリスベン市、福岡市、釜山市は、水量確保性の厳しさだけでなく、下水発生量を減らす節水運動を通した根本的な水質環境管理政策を施行していることを述べられました。特に、福岡市は節水機器の普及及びコンピューター制御に依る配水コントロールシステムを通じた漏水率の削減政策等、節水都市として様々な水使用量を減らすための努力をされていることを紹介されました。

下水道分野では、都市下水と沿岸の水質を保全し快適な都市生活と豊富な自然環境を目指した都市をつくるために、下水管の整備、下水処理場の拡充等の努力と各都市が直面している多様な事例の発表がありました。排水を収集するための下水管路が、雨水と下水とを同時に収集する合流式になっているオークランド市と鹿児島市は、分流式下水管渠の普及拡充の努力が重要なものと述べられました。特に、釜山市は分流式下水管渠の普及の難しさを補完し、都心の河川汚染を防止するために河川辺に遮集管渠を設置拡大していく方法を紹介しました。ホノルル市は、下水管を整備する時、都心の交通難の問題を解決していくために、ジェット・グラウチング工法という独特の方法を採用していることを紹介してくれました。クアラルンプール市、上海市、ホーチミン市は散在している工場を移転させ集団化し、人口密集地域等に対して区域別に処理計画を施し効率的な下水処理システムを構築していく方法を述べられました。全ての市で、河川と沿岸の汚染を防止するため、下水処理場施設を

拡充しており、特にブリスベン市、釜山市、福岡市は潮流による汚染問題を防止するため、窒素、磷を処理する高度下水処理方法を採用しています。ホノルルは下水処理後に外海に放流する方法を行っており、海洋水質に及ぼす影響を評価するために多くの努力を傾けています。釜山市は、下水処理場の立地による地域住民の同意を得るために、処理場を近隣の自然公園の地下に建設したり、処理場の上部を体育公園化する住民支援事業を実施して住民の反対を克服した事例を紹介しました。

一方、上水道の施設拡充による投資財源を確保するため、民間投資方案に対する話もありました。下水処理場の効率的な運営のため、オークランド市のように地域共同体所有会社で運営する方法。ホーチミン市とクアラルンプール市は、上水道整備に必要な莫大な財源を確保するために、BOT方式や民間委託方式等の多様な方法を提起されました。国連ハビタットと国連経済社会局をはじめ、参加された方々と、これに関連した上下水施設の効率的な運営に対する論議もありました。都市の上水道と下水道の問題は人体の血液に比喻されるように、上下水道問題を関連させた総合的な対策を立てることができるシステム的な解決方案を探ることが何よりも重要だという点が述べられました。

第3分科会議ではこれ以外にも多くの政策が紹介され討議されましたが、時間の関係上十分に説明できず残念に思います。以上で第3分科会の会議内容の報告を終わります。

## //// 国連報告 //

【桑原敬一 座長】 安相英市長、どうもありがとうございました。以上で3つの分科会の座長報告を終わります。

自由討議に入る前に、国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所長のイグナシオ・アルミヤス氏に、国連サイドでの「都市連携の将来展望」についてご報告をいただきたいと思います。では、アルミヤス所長、よろしくをお願いします。

### 『都市連携の将来展望』

【イグナシオ・アミリヤス 国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所長】

自由と公平を唱える国連センターの事務局長に代わり、この第3回アジア太平洋都市サミットで発言の機会をいただきましたことを大変嬉しく、また光栄に存じます。皆様ご存じのように、ハビタットは都市化と住宅問題に責任を持つ国連の機関です。1年前に日本政府のお招きをいただき、アジア太平洋地域事務所を福岡に開設することになりました。この福岡事務所は技術援助と情報提供をアジア太平洋加盟各国に対して行っており、また我々の組織に関連した地域会議やセミナーを行って参りました。実際に、最近アジアにおける持続可能な消費に関する地域会議を行いました。これは今回のサミットに対する準備の会議でしたので、この機会に議題と会議の成果について報告させていただきます。

この会議で懸念事項となっていたのは、生態系の変化の爪痕がアジア太平洋地域に広がっており生活環境に影響を与えているということでした。これは都市化と消費の組み合わせが推移の直接の結果です。都市化は現代の最も大きな変貌の1つです。工業化以前の都市では後背地と共生的関係があったわけですが、工業都市になると後背地をどんどん拡大していき、その結果として環境への影響が出

てきました。巨大都市が出現して国境を超えて環境への影響が大きくなってきました。そして、これらの巨大都市は非常に広い範囲から資源をとり、代わりに廃棄物を出して、既に枯渇した土地を汚染することになったわけです。巨大都市の出現は、これまでにはなかった地球環境への挑戦でした。都市化のスピードは人口増加のスピードの2.5倍に及んでおり、これはアジア太平洋地域に大きな影響を与えることとなります。また、アジアでは1994年に34%であった都市人口が2025年には55%に増加するということです。より重要なことは、人口1,000万人以上の都市の数が、現在12であるのが、西暦2015年までには27に増えることです。そのうち17の都市はアジアに出現します。人口の巨大な集中に伴う問題としては、都市人口、特に豊かな諸国では持続不可能なレベルの消費が出てくるということです。さらにいえば、もし都市化を生活様式、つまり消費パターンで定義するとすれば、大多数の人間が都市生活者ということになります。かなり遠隔地の地方の人々も水道はなくても現在では電気を使っていますし、都市生活者と同様に車を運転しています。本質的には彼らも都市型人間なのです。したがって、持続不可能な消費パターンが都市の境界を超えて広がっています。今、私が報告している会議では、現在進行中の問題や傾向を検討し、各都市で持続可能な消費を推進するには、どのような制約や機会があるかについて話し合いました。そこで4つのテーマが検討されました。まず水の問題があります。世界の水の需要量は、地球上の河の水や雨水の合計のほぼ半分にも達しようとしています。必要を満たすためには、遠隔地の水源から水をひいてきたり、枯渇しつつある地下水源からポンプで汲み上げなければなりません。最近、途上国では40~60%の漏水が記録されています。より豊かな国では、消費レベルが高すぎて全く持続不可能です。都市での一人一日あたりの水の消費量は300~400 $\text{m}^3$ にもなっています。節水と土地管理は単なる水消費対策ではありません。何にもまして効率的で賢明な水利用法を促進するための戦略が必要です。都市の水需要管理とは、水の循環全体を保全し水を汚さずに下流の水もきれいに保つということです。節水は、まず水を経済的商品とみなし価値を認めることから始めるべきです。貧困層や途上国の低所得層のためには、基本的ニーズを満たした上で水の価格を設定し、それに応じて分配することです。第2番目の議題は、交通とエネルギーでした。世界の一次エネルギー消費は年間3%も増加しています。都市で消費されるエネルギーの殆どは、市内の交通に用いられており、贅沢なビル管理や料理、そして勿論生産的活動にも用いられています。先進国における一人あたりのエネルギー消費量は途上国の9倍にもなります。しかし、急速な都市化と所得の向上等が相まって、低所得国のエネルギー需要も西暦2015年までには先進国並みになると予測されます。アジアの各都市は様々な政策や手段を採用してエネルギー分野の持続可能な消費をはかる必要があります。社会的経済的物理的条件が各都市によって異なっているため、交通とエネルギーの分野で持続可能な消費を達成するために一連の同じ政策や手段をアジア各都市にあてはめることはできません。政策決定者は交通とエネルギーの分野の問題解決のために、自らの都市に最も適切で問題解決の可能性の高いと考えられる政策を注意深く検討して選択しなければなりません。第3のテーマは、廃棄物の発生の問題でした。日常活動や一般家庭、農業、公共機関や大小産業により、市内の廃棄物は山のように生み出されています。都市では特定のゴミがどのように発生するのか、或いは資源についても、よく理解されていません。市の廃棄物担当部門は、目の前にあるゴミの収集と投棄を日常的に繰り返しているだけで持続可能な消費を達成するための長期的プロセスについては何ら関心を持っていません。しかし、ゴミの削減やリサイクリングやゴミ処理には関心を持っています。複合文化の巨大都市で消費習慣を変えるのは大変難しいことです。一方で消費習慣が大きく変化しても、

地域レベルでのゴミ削減活動の範囲には限りがあります。解決策を求める上では、変化の音頭をとる主役が誰かをはっきりさせることが重要です。持続可能な消費とゴミ削減を結び付ける最初のきっかけは地方自治体がつくるべきですが、最終的には国際市場と製品のデザインの変化も採り上げる必要があります。

第4のテーマは天然資源管理です。天然資源の中でも、特に森林資源については都市生活者の基本的ニーズを満たす必要があると認識されました。とはいえ、都市における生産と最終的な消費のために天然資源を利用する現在のパターンが、都市地域において環境悪化の大きな要因となっているのは明らかです。現存の天然資源の質を高め生産性をあげる努力をすべきでしょう。これは経済的のみならず物理的に持続可能なベースで生産高をあげることを目的としています。会議の結論としては、都市の消費パターンを変えようとするれば、各分野にまたがるアプローチが基本だということになりました。これには各分野の調整を行ったり、戦略的問題を採り上げて共通の目標達成を目指すなどの方法があります。そのようなアプローチは重要な中心的指標の開発を促します。これは、集团的消費パターンに対する予防的予測的活動を導くための早期警戒システムを形成するのに役に立つものです。消費パターンを変えるためには、全ての政府機関と経済界が協力しなければなりません。国際機関が成功事例について各国に情報を提供して無駄な試行錯誤を避け最小限にし、過ちが繰り返されずに協力が推進されるように努めるべきでしょう。

結論として私が申し上げたいのは、ホノルル市長がおっしゃったように、来世紀は「都市の世紀」になるということです。アジア太平洋地域は、都市化と消費への挑戦へ、過去に直面した問題と同様の熱意と決意をもって立ち向かうことでしょう。しかし課題は大きいものです。全てのエネルギーと想像力をもって闘うことが必要です。相互依存がますます高まっていく世界で、地域の都市間協力と強調は成功の鍵です。そういった観点からみて今回の都市サミットは正しい方向へと向かう大きな一歩だと思います。ありがとうございました。

#### 自由討議

**【桑原敬一 座長】** ありがとうございました。人間居住問題に関する国連の理念をはじめ、ハビタットの活動等、多岐にわたるお話をいただきました。

それでは、分科会及び国連からの報告を踏まえて、ただ今から都市連携の将来展望について討議を始めます。過去2度の都市サミットと実務者会議の開催を経て、ネットワークの形成或いは相互理解の面では一定の成果を上げたのではないかと私は思っています。今後この都市サミットを継続発展させていく意味においても、また今回の会議のコンセプトである「アジア太平洋地域の都市の持続的繁栄」を実現していくという意味においても、都市間連携や協力という関係は不可欠であると考えます。

この会議には、12か国・地域23都市の代表者の他に、さきに報告をいただきましたイグナシオ・アルミヤス所長と国連ニューヨーク本部からお越しの経済社会局計画調整官の米川佳伸氏のお二人にもアドバイザーとしてご参加いただいております。お二人からもご発言をいただき、新たな世紀である21世紀に向けての都市連携のあり方等、皆様から忌憚のないご意見を存分に出していただき、お互いに胸襟を開き率直なところで討議を行いたいと思います。午前中の分科会の感想でも結構です。ご自

由に発言いただきますようお願いいたします。

**【クー・サイ・キー シンガポール国家発展部政務次長】** 都市サミット開催は今回で3回目ですが、過去2回の会議は多くのことを学ぶ貴重な経験となりました。福岡市に来ると大いに啓発されます。先週のアジアウィーク誌が福岡をアジアで最も住みやすい都市として選んでいましたので、その理由を知るためにも私どもは福岡へやって来ました。アジアにいる私たちは、都市について評価する際に高層ビルの多さや記念碑や建築物に目を向けがちです。しかし、この会議では、そのようなハード面以外のソフト面に関わる問題も同様に重要であることが認識されるようになりました。教育やヘルスケア、下水道システム等の問題です。このような点については、カラフルな都市紹介の観光パンフレットでは忘れ去られています。今回、国連の方から都市化問題についてお話を伺いました。そこで、過去に開催された重要な会議の幾つかが思い起こされました。1992年にはリオデジャネイロで地球サミットが開催され、その4年後にハビタットII会議がイスタンブールで行われました。第19回国連総会では、シンガポールのゴーチョクトン首相と、西ドイツのヘルムート・コール首相、南アフリカの副大統領とブラジル大統領が都市における持続可能な開発を訴え、コール首相は2000年に「アーバン31ワールド कांग्रेस」なる特別な会議を主催すると発表しました。シンガポールは、都市でもあり国家でもあるというユニークな経験を皆様と分かち合いたいと考えています。都市国家でもあるため、土地不足や人材不足等により、通常の都市より複雑な問題を抱えています。ワールド31会議の準備段階として、シンガポールは「モデル都市世界会議」を来年開催します。お手元にその資料があるかと存じます。ここにいる皆様全員に、ぜひ参加していただき私どもの経験を皆様にお伝えしたいと願っております。最後に、今回第1分科会に参加して、アジアにおいては教育制度の改善が緊急課題だと感じました。分科会参加者は、教育施設や教育制度の改革の必要性について話し合いました。なぜなら、市民の力を活用するシステムを用いて21世紀へと飛躍すべきであり、そのためにも教育が人材養成の鍵となるからです。どうもご静聴ありがとうございます。

**【桑原敬一 座長】** どうもありがとうございました。来年、モデル都市世界会議をシンガポールで開くということです。皆様、お含みをいただきたいと思います。他にございませんか。国連の米川さん、どうぞ。

**【米川佳伸 国連経済社会局計画調整官】** 一般的な話になるかと思いますが、私は上司等と一緒に1994年の第1回から参加させていただいています。毎回、大変勉強になり有り難いと思っています。その中で気がついたことを2点申し上げます。1つは、1994年の第1回では割合にテーマが一般的だったと思いますが、それがその次の回から大分具体的になってきました。同時に、第1回の時に「実務者会議をやるう」という提案が出て、それもそのとおり実行されました。テーマもより具体的になり、分科会等を通して出てくる議論を拝見しましても、随分具体的になってきている、そのような変化があったと思います。また、初めの頃は、皆さんが集まって対話をすることの重要性が強調されていたようですが、そこから具体的な活動或いは対話に基づいた行動に移ってこられた。これも大変評価できる点ではないかと考えます。ご承知のように、地方自治や分権化は国際連合も注目している世界の大きな潮流です。これから先もこの流れはどんどん進んで行くと思いますが、このサミットを機会に、



ますますその方向が進むことを期待しています。そしてまた、国際連合という組織は中央府がつくっている組織ではありますが、様々な形で地方公共団体その他の方が参加してくださっています。ぜひ我々の組織も、もっと使っていただきたいと考えています。情報交換も1つでしょうし、或いは開発途上国に対しての技術協力もあります。ただ、国際連合の組織は随分複雑で、午前中の第3分科会の上下水道関連で少し申し上げましたが、その関係の問題を扱っている国際連合の組織は22あります。よって、具体的にどうしたら良いかということになると大分面倒なことになるかもしれませんが、その様な時には是非私どもにも連絡いただき協力させていただきたいと思っています。

**【桑原敬一 座長】** どうもありがとうございました。はい、ジェレミー・ハリス市長どうぞ。

**【ジェレミー・ハリス ホノルル市長】** 国連のアドバイザーは、まさに的確に問題点を指摘してくださいました。特に我々全てに共通する環境問題について指摘されました。この地域ならではの問題は、人口増加と消費増加が予測されることです。人々がより豊かになってきたため、非常に大きな環境問題が明らかに目の前に迫っています。今回のような会議やホノルルが2月に開催する環境サミットは、我々の共通の利益がどこにあり、どうしたら協力できるかを見極めるために役立つと思います。そこで、私の疑問は、どうしたら会議の成果を実行に移せるかということです。どのようにしたら各都市の技術担当者を動員して実際に情報交換をさせることができるのでしょうか？今現在でも実行可能なのに行われていない技術移転についても調べてみる必要があるでしょう。技術的なレベルから見て、様々な組織や団体が以前試みた失敗例や成功例について、どうしたら情報を入手できるのでしょうか？つまり、会議で話し合う段階から次の具体的な段階へと、どのようにすれば一步前進できるかということです。例えば、特に環境問題への数多くの取り組みや世界中で開発された環境技術のマスターデータバンクについてインターネットを通じて構築することができるのでしょうか？できましたら、会議レベルから、発想や情報や技術の継続的な交換へと移す方法について、今回の会議ではなくとも後の会議で議論していただければと思います。

**【桑原敬一 座長】** 今のご提案について回答をご用意の方はいらっしゃいますか。十分相談をした結果ではありませんが、私はこのような情報交換の場から、お話のように、今後さらに実務的に或いは技術的に、技術援助等の段階に入っていくべきだと思います。その意味においては、この全体会議からその方向が出たとすれば、もう少し問題を絞って実務者会議で議論していただいて一つの方向性を出すことも必要ではないかと思っています。今のご提案については、全体会議に記録を残して実務者会議に検討をおろしていきたいと思っています。他にございませんか。

**【ナタノン・タヴィシン バンコク市総務企画局長】** サミットについてももう少し意見を言わせていただきます。時間が限られていたこと、各議題毎のディスカッションの時間が短すぎたとです。次回のサミットではディスカッションの時間がもう少し長ければと思います。また会議で各都市に行った際には、これらの3つのテーマについてのスタディツアーをできたらと思います。最初のテーマは未来の教育です。来世紀の教育のために各都市で何が行われているかを学ぶために学校の中まで行って研究するスタディツアーが必要です。どうか次回の会議では、他にも議論するテーマがあれば加えて

下さい。また、各国間の技術交流の一環として、人から人への技術移転をはかったり各都市から学ぶために特別な技術スタッフ対象のトレーニング・コースの交換をするのも良いアイデアではないかと思ひます。最後になりましたが、私どもを温かく歓迎していただきまして本当に有難うござひます。今朝も申し上げましたが、アジアウィーク誌は福岡市がアジアでベストワンの都市だと記事で紹介しております。そのとおり本当に素晴らしい都市です。ありがとうございました。

**【桑原敬一 座長】** ありがとうございます。運営の問題についてのご指摘でした。私も第1分科会の座長として各都市の事例発表に相当時間を費やした感じがしました。これからは、事前に各都市の状況を資料でお渡しして理解をしていただく。そして会議では問題点を絞込んで討議をするような時間の割振りに留意していきたいと思ひます。

また、香港で発行のアジアウィークに掲載された本市の記事を、お読みいただきありがとうございます。他にござひませんか。

**【安相英 釜山広域市長】** こんなに素晴らしい会議を開催し、ここに招請していただいた桑原福岡市長に、そして市民の方々に感謝申し上げます。第3分科会議では上下水道問題を真摯に討議し、時間が足りない程でした。今、世界的に都市がますます大きくなり、深刻となった都市問題の解決のために、このサミットがあるのだと改めて理解しました。開発途上国の都市はその都市なりに、そして先進都市では先進都市なりに抱えている都市問題があり、私はアーバンデザインを専攻していた人間ですが、都市が抱えている貧困層の問題はかなり大変なものようです。生活の質の問題においては物理的な解決も重要ですが、貧困層の問題をどのように対処するかということが今後大変重要ではないかと思ひます。次回は釜山市が2000年に主催することになっていますが、今後サミットが継続して発展していくためには必ずや考えなければならない問題で、都市を経営管理する市長にとっては、この問題が大変深刻なものになると思ひます。私はこの問題がいつか一度、実務者会議を通して採り上げられることを提議します。そしてこの素晴らしい会議が益々充実した内容になっているとの会員都市の見解を聞き大変嬉しく思ひます。ありがとうございます。

**【桑原敬一 座長】** 次期開催都市は釜山であり、今後の議題についてのご提言がありました。実務者会議等で相談させていただきたいと思ひます。私どもの都市で最近顕著に感じますのは、百万都市以上になると、あちこちから貧困層の人々が集まってくることです。それが年末等に都市問題として大きな悩みになっています。日本の場合は生活保護制度があり、最低生活ができない方は憲法上救済の道がありますが、そういう救済制度から漏れた方やその制度に乗りたくないという方もおられるようです。そのようなことも各都市の悩みですので、次期のテーマとするかどうかについて今後検討をお願いしたいと思ひます。

**【ティム・クイン ブリスベン市副市長】** 今回初めてブリスベン市を代表して会議に参加していますティム・クインと申します。参加の機会をいただいたことに対し、再度お礼を申し上げるとともに開催をお喜び申し上げます。私は、この会議に参加して大変感銘を受けました。また、各都市の背景も状況もかなり異なっているのは、直面する問題は非常によく似ていて、それが私たちを結び付けて

いるということを強く認識しました。ですから、継続的なディスカッションを続け協力して問題に立ち向かうことが重要だと思います。もう一つ考えたことがあります。おそらくどの都市でもそうだと思いますが、私の市の場合、リーダーシップや組織の力は、あくまで市内のみのネットワークに基づいています。例えば、私たちが各都市で持っているパートナーシップは、明らかに地元の地域共同体の組織や専門分野の人々や民間セクターによるものです。各都市間で市の指導者レベルで連絡を取り合うだけでなく、こういう市民レベルでの交流を深め、各都市の専門家同志やビジネス関係者同志の重要なパートナーシップを築くことも前向きな活動だと思います。ブリスベン市も、1996年に都市会議を主催しましたが、また来年の1999年に再度開催する予定です。ぜひ市長や市政府のリーダーの方々に私どもの市に来ていただきたいと思います。また同時に、専門家分野やビジネスでの交流も目指しており、都市計画や都市インフラのような専門的技術的開発についても共通の問題に焦点をあてて議論を進めたいと願っています。都市サミットにおける我々の2つの路線では、より緊密な協力ができると思います。企業家グループや専門家集団、市民グループ等の間に、都市にとっての強さの礎となるようなネットワークやパートナーシップを促進することを私は提案します。今回の会議参加の機会と温かいご歓迎をいただきましたことに心から感謝いたします。

**【桑原敬一 座長】** 今お話のようにブリスベンでは、1996年にシティーサミットを開かれ、99年にもまた開催されます。それにはビジネス界の方や様々な分野の方々が参加されるようです。先程のシンガポールでもモデル都市世界会議があるとのことですが、我々のこの都市サミットだけではなく色々なネットワークがあるようですから、私どももまたブリスベン会議にも参加して幅広くノウハウや情報の交換をしていきたいと思っています。

**【レス・ミルズ オークランド市長】** まず最初に3回の会議に対してお礼申し上げます。私は全ての会議に参加させていただきましたが、会議の運営は見事なものでした。また、福岡市役所の皆様にも感謝申し上げます。さて、先程バンコクの代表が提示された点に対して、座長ご自身がコメントされたことについて触れたいと思います。座長のコメントは全くそのとおりだと私も思います。今回の会議や以前の会議でも、興味深くはあるが少し複雑な内容について自由討議が始まると時間切れになりがちでした。ですから、発表原稿は文書で配布して実際の発表よりも自由討議にもっと時間を割り当てる方が良いと思います。また、議題の幾つかは準備のために実務者会議で取り上げることもできると思います。過去3回の会議でも難しい質問や問題が提議されました。今回は教育と医療保健と上下水道です。以前は廃棄物処理や住宅問題、交通、港湾活動等を取り上げましたが、各都市のインフラが非常に異なっているために、こういった問題はとても複雑です。先程おっしゃったテーマを取り上げる際、質問のパターンと、それへの答えや事例の準備プロセスを整えて、かなり長い自由討議ができるようにしたらどうかと思います。次回の主催都市である釜山市がそのような線にそって会議進行をして下さるならば、会議の成果も一層上がるのではないかと存じます。

**【桑原敬一 座長】** ありがとうございます。ご提案として承ります。

**【林樹森 広州市長】** この会議を2年に1度開催することを制度として続けていくのであれば、市

長の立場から1つ提案したいと思います。皆さんは、時間が足りないと思っておられます。というのも会議では準備した資料の発表等を10分間で行わねばならないからです。これでは、発言にせよ資料にせよ、1つの都市のある問題についてきちんと述べることは困難です。そこで、次の会議では各方面のテーマについて、より具体的に、より多くの資料を準備することを提案します。そうすれば、会議では短時間に簡単な説明をするだけで済みます。資料も各都市のために役立つでしょうし、討論の内容も更に深められると思います。また、2年に1度の開催を制度化する場合、参加都市がネットワークをつくり、サミットを待って各問題を検討するのではなく、普段からそれぞれが直面する問題や考え方などを交流できるようにしてはどうでしょうか。検討する必要があると思う問題については、いつでも他都市に発信し皆さんに考えておいていただき、2年後にきちんと検討するようにすれば、より充実すると思います。第3回のサミットを通して、各都市は他都市の優れた点や経験を知ることができました。そして、都市間の結びつきが強まりました。都市にとって市長は重要な存在ですが、ご承知のとおり多くの仕事は市長の下にある各部門が処理しています。ですから、私たち代表はこのような都市間交流の中から各都市の長所を学び、実務部門間の相互協力と交流をより一層推進させていかねばなりません。そうすることが、この会議をさらに実りあるものとしてくれるものと思います。最後に、桑原市長と福岡の皆さんが私たちにこのような素晴らしい会議を準備してくださったことに、もう一度感謝の意を表します。またこの会議に参加された各市長や各市の担当者の皆様が、ご都合の良い時に広州市におでかけくださることを心から歓迎します。ありがとうございました。

**【桑原敬一 座長】** できるだけ詳細な資料等を整えて事前に配付をして、十分それを理解して会議に臨む、そして互いに話し合う時間を確保すること。全く同感です。また、日常業務について、もう少し姉妹都市間或いは問題が共通する都市間で日常的に情報交換等を行うということ。私どもは広州市とは姉妹都市ですから、それに近いことは行っていると思いますが、本日は姉妹都市関係の都市のご出席も多数ございますので、もう少しお互いに工夫をしていきたいと思っています。ご提言ありがとうございました。

**【イメルダ・スニコ マニラ市医監】** 第3回アジア太平洋都市サミットにマニラが参加する機会をいただきましたことに、まずお礼申し上げたいと思います。このサミットは姉妹都市にとって大変有用なものです。なぜなら、各都市代表が一同に会して情報や経験を分かち合い、共通の問題や対策について語り合う絶好の機会だからです。まさしく私たちは、このような経験から多くを学びました。また、各姉妹都市や他の都市の高官とお会いできるよい機会でもあります。マニラ市も今回多くの恩恵を享受させていただきました。バンコクと同様に、私どもも特に技術移転や技術的知識を必要としております。そこで、福岡市や他の先進都市に、研修ツアーや視察旅行について援助していただけないでしょうか。先日、私は「あいれふ（健康づくりセンター）」を見学して、楽しみながら健康について学ぶための高度に洗練された設備に大変感銘を受けました。いつか私の市にも造ることができたらと思います。また、今回のサミットで学ぶ機会の一環として、福岡市の保健施設の見学ツアーを行っていただくことを提案いたします。

**【桑原敬一 座長】** 具体的な視察の時間も確保してほしいということでした。各代表の方には日程

が非常に厳しい中でご出席いただいております。その時間がなかなかとれないものですから、2年に1回の実務者会議でご覧いただいております。今後、この都市サミットを開催していただく都市に、少しでも時間が許すならば、そのような視察を入れていただいても良いのではないかと思います。ご提案の趣旨については、次回開催市である釜山市さんとも相談していきたいと思います。

**【ダト・ハジ・タラー・ビン・トー・ハジ・フセイン イポー市長】** まず最初に、イポー市議会を代表して福岡市に、特に市長に対して、会議へ招請していただいたこととこの数日間にお受けした温かいご厚情に感謝申し上げます。討議に参加して大変刺激を受けましたし、参加者全員が新しいアイデアを持ち寄り素晴らしい会議となりました。先程の提案に私も賛成です。特にネットワークづくりに関しては、都市を発展させ市民にとってより住みやすくするために大変重要だと思います。それから、ビジネス分野の人々も巻き込む会議を開催するというブリスベン市の提案ですが、将来はおそらく市役所や市議会の役割が変わってくるだろうと思いますから、変化する市政府の役割或いは都市そのものの役割について探求してみるのはいかがでしょうかと思います。その点に関して、マレーシアの状況を述べますと、イポー市の場合、地方自治体活動のうちいくつかは民営化が進められています。ということは、廃棄物処理等が民間企業に委託されて地方自治体の手を離れることを意味しており、これは他都市でも同じ変化が生じているのではないかと思います。こういった問題に関する将来の都市行政の役割について討議できればと思います。21世紀に向かうにつれて国際化が進展し、地方自治体の中心的業務は変化していくことでしょう。そのような問題について、将来の都市サミットで採り上げていただきたいと思います。

**【桑原敬一 座長】** 都市には、我々執行部及び議会も含まれますが、議会の視点というのは、まだ持っていません。しかし、お話がありましたように、これからの地方分権の流れですので、ますます市議会のウエイトは高くなると思います。その意味で、議会の役割をどうするかということについて、これからの都市サミットの研究課題とさせていただきたいと思います。ごみ問題は自治体の仕事ですが、福岡市は昔から全体の行政の企画等は市で行い、ごみの収集については民間に委託をしています。恐らくこれは日本の自治体の中で唯一ではないかと思います。福岡市ではごみを夜中に収集していますから、まちが綺麗だということの理由の一つは、このことではないかと思います。東京周辺は昼間に収集しますから、カラスが来てごみをつつき散乱しているという光景が見られます。福岡の場合はかなり前から民間にお願いして夜中に収集していますから交通も混雑しません。能率も非常に良いということもあります。これから「小さな政府」、「小さな行政」という意味において、このように自治体で行うことと民間で行うことの整理の仕方も、この都市サミットのこれからの重要な検討課題ではないかと思います。ありがとうございました。

**【賀旻 大連市副市長】** 先程からのご提案には私も多めに賛成です。まず福岡市の桑原市長や福岡市民の皆さんが、今回の会議に参加した私たちに寄せて下さったご厚情に対して厚くお礼申し上げます。またスタッフの皆さんの周到なお心遣いに対しても感謝します。本日の午前中、保健医療問題について第2分科会において9都市の代表と意見交換をし大いに収穫がありました。ここで先程のご提案を繰り返すのは差し控えますが、少し言い添えたいと思います。今回の第3回アジア太平洋都市サミットに提出された3つの議題は、どれも21世紀の都市の発展に係わる各都市共通の議題だったと思

います。これらの問題については、各都市の実状も異なっており、それぞれに優れた点があり、対処の方法や経験があります。もし各都市がこの3つの問題全てについて資料を準備すれば、各都市が交流する情報がさらに増え、情報交換する過程で相互の経験や長所がさらによく理解でき、自都市の発展に益することができます。今後2年に1度このような会議を開催し、こういった共通性のある問題を討議するのならば、参加都市はそれらの問題に関する自分たちの状況について総合的な資料を作成し、交流する中でより多くの情報を得ることができるようにすれば、より良いと思います。最後にもう一度、主催都市の暖かいおもてなしに感謝します。そして各都市の市長さん、機会がありましたら、いつでも大連にお出かけ下さい。ありがとうございました。

**【桑原敬一 座長】** ありがとうございました。できるだけ会議の事前に情報交換を行う。また先ほど広州市長が発言されましたように、特に姉妹都市間で常時情報あるいはノウハウの交換をしておくべきだということでした。ありがとうございました。リー・タン・ハイ第一副市長、どうぞ。

**【リー・タン・ハイ ホーチミン市第一副市長】** 最初に、福岡市の桑原市長と市役所の皆様に対し、サミット開催と参加ご招待を感謝申し上げます。今までに出された意見や提案全てに私も賛成です。サミットのテーマは实际的で有用であり、私たちが日々直面する問題に対処するために大いに役立つことを嬉しく思います。また、会議の進行運営が素晴らしく忘れがたいものであったことも、ぜひ付け加えたいと思います。我が市の都市開発は遅れていますが、今回の会議では参加各都市から多くの教訓や経験を学ぶ貴重な機会をいただきました。これまでのサミットの成功は別にして、もっと自由討議と意見交換の時間をとろうという各市長の提案に私も賛成です。インターネットによる情報交換という提案は大変有用だと思います。特に前のサミットから今回のサミットまでの期間に役立ちます。また、実務者会議の強化もはかり、各都市の背景情報全てを前もって配付しておけば、会議中には問題についてより深く討議できると思います。次期サミットのテーマに関しては、地方から都市への人口の流入について採り上げていただけたらと思います。釜山市長が指摘されたように、都市開発管理を考える上では自分の都市だけでなく近隣地域の発展も考慮すべきであり、各都市地域の調整のための、より良いマスタープランが必要です。それがなければ地方から都市への人口流入に悩まされることとなります。ご存知のように、ホーチミン市の人口は現在600万人で、その多くは地方や周辺地域からの流入者です。そのために様々な問題が生じており、当市のインフラにも重い負担がかかっています。発展した都会への人口流入は途上国共通の問題であるばかりでなく、先進国や先進都市でも、現在または過去に経験した問題だと思っています。ですから、その経験や教訓について、ご教示いただきたく存じます。

**【桑原敬一 座長】** ありがとうございました。

**【赤崎義則 鹿児島市長】** 私は「都市と上下水道」がテーマの第3分科会に入りました。やはりお話がありましたように、事例や制度の報告或いは紹介をするということに重点が行き過ぎた感があったなという気持ちがあります。したがって座長がおっしゃったように、事前に何らかの形で知らせておくことで十分になるのではないかと考えています。そこで1つの提案ですが、同時に、もう少し絞っ

たテーマ、サブテーマを作って、それを重点に自由討議していくことも大事ではないかと思います。また、そのテーマも前もって幾つか知らせていただき、出席する者が十分研究調査をして会議に臨むことが大事だと思います。例えば「都市と上下水道」は幅が広過ぎますので、これからの上下水道を、より効率的にコストを下げる形で管理していくにはどういうことが大事か、どういうことに気をつけるべきかや、また、これからの新しい環境問題を踏まえて我が都市の下水道のやり方をこういう方向に変えていくんだなど、そこまで出し合って討議していくと発言も出易く、効果もより上がるのではないだろうかと感じました。我々は各都市の実情を聞き自分で判断する能力を持っていますので分科会の報告でも十分大きな効果があったと思いますが、自由討議をさらに充実させるということで、テーマや事前準備をしてくるやり方等に色々と工夫をしていただければありがたいというのが私の率直な感想です。

**【桑原敬一 座長】** 会議の持ち方について、もう一工夫すべきであるということも各市のご提言です。実務者会議或いは次回の釜山市さんとよく相談しながら、私ども事務局はさらに努力していきたいと思います。

**【ヤティム・イシャク・アマド クアラルンプール市下水河川管理局次長】** 福岡市長と福岡市の皆様に対して感謝するとともにサミットのご成功をお祝い申し上げます。私は上下水道システムに関する第3分科会に参加しました。そこで民営化に関する非常に貴重な発言をお伺いし、できればマレーシアにも導入したいと思いました。あまり利益を生まないものについて民営化をはかる際に補助金を出すという案は、より利益のあるものだと感じました。できましたら、そういった意見について何らかの短い文書が入手できれば、国に持ちかえって詳しく検討してみたいと思います。もう一つ第3分科会で論じられた点は漏水問題で、福岡市が対処されています。私はその内容に大変感銘を受けました。ですから、全般的に今回のサミットから大いに学んだと申し上げたいと思います。有難うございました。

**【米川佳伸 国連経済社会局計画調整官】** 今のお話ですが、第3分科会で私が申し上げた点に関する点だと思いますので少し発言します。民営化、特にBOT、そして同じような形のプロジェクトファイナンスの仕方が最近盛んになってきており、国際連合の中でも、世界銀行グループ、UNIDO（国連工業開発機構）或いは国連事務局等でこれについて情報を収集したりワークショップをやったりしています。UNIDOは、BOTについてのガイドラインを一冊の本にして、たしか去年出版しています。私のところでも、バンコクでこの関係のワークショップを行いました。それについての資料等はある程度ございますのでお送りできると思います。私の直接関係したワークショップのことを簡単に申し上げますと、プライベートセクターつまり民間のBOTに参加する人達とパブリックセクターつまり公共部門でBOTに関係する人達とでは関心が全然違う、そして利益が違うということが言えます。よって、言葉も違いコミュニケーションが余りできないことが多いというのが1つのテーマでありワークショップを行ってはっきりした点でした。プライベートセクターの人々の場合には、それ相当の準備をしておられるし、そうでなければ仕事になりません。一方、パブリックセクターの人々の場合には、議論武装なり情報を多く持ったプライベートセクターの人々と色々交渉しなければいけ

ないのだけれども、必ずしも情報が十分でないことがあるようです。その点で公共部門の方に対する様々なアドバイスや技術協力等が必要なのではないかと考えています。ペーパーについては、私はキャパシティー・ディベロップメント、特に政府の方や公共部門の方への人材育成のためのものを用意しました。どこまで参考になるかわかりませんが、お送りしたいと思います。

【ナタノン・タヴィシン バンコク市総務企画局長】 少し提案があります。将来のサミットで、例えば健康な都市づくりといった都市開発管理に関するテーマを採り上げていただけませんか。健康な都市といっても、ただ保健衛生のみを問題にしているわけではありません。物理的、経済的、社会的に健康な発展や住民の心の健康な発展が一体化すべきです。健康な都市とは、持続可能な発展ができる都市となるため、各分野に市民が積極的に参加するような市民社会があることを意味します。そして次回のサミットでは、現在私たちが直面している問題、つまりアジア諸国が直面している経済危機のような問題を探り上げるべきだと思います。経済問題や失業問題を探り上げ、サミット参加各都市の基本的対策について教えていただきたいと思います。各都市がビデオかCDを用意して画像で色々な分野を紹介し、文書と共に前もって参加都市に送れば会議開催都市に行く前に皆が学ぶことができると思います。その方が、座長が言われたように自由討議により時間がとれますし、真剣なネットワーキングや協力を図っていく上でも役立つと思います。そうすれば、私たちのネットワーキングは非常にうまくいくと思います。

【桑原敬一 座長】 健康づくりに関するテーマを探り上げてほしいということでした。今日の保健衛生の問題もその一環ですが、余り広くなってもいけません。なかなか難しいところですが、これから高齢社会に向かえば向かうほど健康問題は重要な課題と言えます。今後の検討課題とさせていただきます。

それでは時間がまいりましたので、討議をここで終了させていただきます。多くの貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

#### ----- 座長取りまとめ -----

#### 【桑原敬一 座長】

それでは、テーマであります「都市連携の将来展望」に基づいた本日の全体会議を集約させていただきます。

全体会議では、まず初めにアジア太平洋都市サミット事務局を代表して、福岡市から昨年11月に開催された第2回実務者会議の報告がなされました。報告の内容は、9か国・18都市の実務担当者の参加を得て、「ごみの処理処分」をテーマに、埋立場での実技研修を行うなど充実した内容の会議であったこと。そしてこの会議を通じて福岡市の廃棄物埋立技術がアジア地域に広がり始めたことなど、大変喜ばしい報告がなされました。次に第1分科会について、座長の佐賀市長より報告がなされました。報告の内容は、9都市の市長たちが「次世代教育の取り組み」について「都市づくり国づくりは人づくりである」という共通認識のもとに、真剣な取り組みについての発表がありました。また自由討議では、家庭教育、コミュニティー等の重要性について意見が交わされました。その中で、知識偏重型の教育を見直してカリキュラムの改善を行い、創造性の開発や自己学習時間について、時間をより多



く割り当てるといった報告がありました。次に、第2分科会ですが、香港臨時市政局主席より会議の報告がありました。7都市の市長たちが「保健医療体制の確立」について討議を行い、各都市の保健医療体制の状況や特徴ある施策の方向について発表がなされました。自由討議においては、高齢者対策について、保健・医療・福祉のネットワークや、高齢者に対応した、まちづくりの必要性が指摘され、感染症については情報交換等、サミット参加都市間で感染症に関する協力が必要だという意見でした。次に第3分科会ですが、釜山広域市長より会議の報告がありました。9都市の市長たちが「都市と上下水道」について討議を行い、急激な都市化に伴う水源の確保、水質の保全並びに市民生活に与える影響をより少なくするためのコストダウンについての方法等について議論がなされ、水質保全のための水中放流方法や、窒素等を除去する処理方法、コストダウンにつながる民間資本を取り込んだ運営について検討の必要があるとの意見が出ました。そして、国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所長イグナシオ・アルミヤス氏に全体会議のテーマである「都市連携の将来展望」について、20分程度のお話をいただきました。都市における持続可能な消費として、水・エネルギー・廃棄物・天然資源に関する消費パターンを踏まえ都市間協力・連携が必要であるという内容でありました。

以上の報告やお話を踏まえ、参加23都市の市長たち全員と国連のお二人を交えて今後の都市間協力のあるべき姿等について討議を行ったわけですが、各都市とも将来に向かって都市連携は重要であるという認識で一致しました。その上に立って、都市間の具体的なネットワークづくりや常日頃の意見交換などの必要性が意見として出され、期待した成果があったと思います。また、将来的にこのアジア太平洋都市サミットを継続発展させていくため、事前の会議情報の提供や自由討議時間の確保等、活発な意見が出されました。このサミットをさらに充実し有意義なものとしていくため、事務局である福岡市といたしましても、実務者会議で検討するとともに、次回開催地である釜山市と協議、工夫をして参りたいと考えています。本日の会議を契機として、参加各都市の都市間連携がさらに進みアジア太平洋の各都市が持続的に繁栄することを期待して、座長の取りまとめとさせていただきます。よろしいでしょうか。

(拍手)

どうもありがとうございました。

**【桑原敬一 座長】** 次に、2000年に開催される第4回都市サミットの開催都市についてですが、1996年の第2回広州サミットにおいて、韓国釜山広域市と決定しておりますので、改めて報告させていただきます。では、第3回実務者会議についてお諮りしたいと思います。既に各都市の意向を確認させていただいていますが、福岡市で開催したいと思います。ご異存がなければ、拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(拍手)

**【桑原敬一 座長】** どうもありがとうございました。テーマについては、本日の会議を踏まえて福岡市の方で検討させていただきます。事務局を務めております福岡市としましては、実務者会議が有意義な会議となり得るよう精いっぱい努力をしまいる所存ですので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。第4回都市サミット開催都市及び第3回実務者会議の開催都市が決定しましたので、これをもちまして全体会議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

(拍手)